

〔報告〕

保健婦の援助の特質を引き出す方法の試み

大井靖子¹⁾ 坪内美奈¹⁾ 石井康子²⁾

A Study of Method to Identify the Characteristic of Public Health Nursing Practice

Yasuko Ohi¹⁾, Mina Tsubouchi¹⁾, and Yasuko Ishii²⁾

I. はじめに

現在、筆者らを含む教員はA町の保健婦と保健福祉活動の推進を目的に共同研究を行なっている。そこで町の保健福祉活動の聞き取りを行ったところ、保健婦は住民のヘルスニーズにきめ細かく対応し、福祉・医療・教育との連携を図った総合的保健福祉サービス、住民との協同活動を活かした保健婦活動を長年にわたり実践していることがうかがえた。しかし、そのような質の高い保健婦活動を実践していても、熟練保健婦には自らが長年培ってきた活動が今の時代に対応していないのではないかという思いがあり、若い世代の保健婦にその長年蓄積された知恵と経験が意識的に継承されていない現状があった。

このことから筆者らは、現在までの実践活動の中から保健婦が自らの専門性を再認識し、保健婦間での共有を図る必要があると考え、保健婦が過去から現在までに行ってきた活動事象から保健婦の援助の特質を引き出し、町の保健婦活動の特徴を明らかにすることを共同研究の一環として取り組むこととした。

本研究では、保健婦の援助の特質を引き出すための試みとして「保健婦の意図」を抽出し分析する。保健婦の意図とは、保健婦の援助におけるアセスメント・判断・目的・目標を示す。保健婦はそうした意図をもって多様な手段の中から援助方法を選択し行動することから、保健婦の援助の特質を引き出すには、表面的な目に見える事象だけでなく、保健婦の意図を調べる必要があると考えた。

本研究は、保健婦から母子保健福祉活動について聞き

取りをしたことを素材に、保健婦の援助の特質を抽出・分類することを試みた方法について考察したので報告する。

II. 目的

保健婦から母子保健福祉活動の聞き取りをした内容から、保健婦の援助の特質を抽出・分類した一連の試行方法について考察する。

III. 方法

A町で母子保健福祉活動に携わってきた保健婦から活動の聞き取りを行い、保健婦の援助の特質を引き出す方法を整理し、順を追って記述する。さらにこの方法を用いたことによって得られた保健婦の意図の分類を行う。

A町の母子保健福祉活動は、表1に示したとおり、町に在籍している6名の保健婦によって実施されている。現在、母子保健事業を担当しているのは3名であるが、それぞれの受け持ち地区では事業分担にかかわらず母子保健福祉活動を展開している。管理職の保健婦は保健事業全般を掌握している。

表1 A町の保健婦の構成

保健婦名	経験年数	保健事業担当
a	30年	管理職（保健事業全般）
b	18年	精神保健・成人保健
c	10年	母子保健・成人保健
d	4年	母子保健・精神保健
e	2年	母子保健・成人保健
f	2年	精神保健・成人保健

1) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学講座 Community-based fundamental nursing, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 育成期看護学講座 Nursing of children and child rearing families, Gifu College of Nursing

研究にあたっての倫理的配慮として、①保健婦自身が語った内容そのものが研究のデータであること、②逐語録作成のためテープ録音を行うこと、③語る内容は保健婦自身で選択し、地区や個人を特定する必要はないこと、④特定の地区または個人に関する内容が語られても、個人情報厳守されること、について研究目的と共に説明し了承を得た。

IV. 結果

1. 保健福祉活動の聞き取りから保健婦の援助の特質を引き出すために試みた方法

以下の順に、保健婦の援助の特質を引き出す試みを行った。

1) 聞き取り (初回)

平成13年2月に教員らはすでに保健福祉活動の全体の流れについて説明を受けており、当時の保健福祉活動に関する資料を基に活動を聞き取った。「母子保健福祉活動において、町の保健婦活動として特徴的なこと、保健婦が意図的に取り組んできたこと」を保健婦自身の活動から自由に選択して話すように依頼した。先方から町の母子保健福祉活動に長年携わってきたa保健婦およびb保健婦の2名が選出され、保健婦経験のある教員5名が同時に聞き取りをした。所要時間は約2時間であった。教員がそれぞれ「保健婦らしい」と感じた場面では、大いそれを口頭で表現して保健婦に伝え、さらに内容を引き出して保健婦の意図に迫る試みをした。保健婦が選択

表2 聞き取りした保健婦活動の内容

- | |
|---|
| 1. 学校保健との連携に関すること
・「食の検討会」での取り組み
・就学指導委員会への保育所参加を促した経過
・学校保健会の設立経過
2. 保育園との連携に関すること
・保育園長会への保健婦の関わり
3. 「ことばの教室」に関すること
・ことばの教室の設立経過
・親グループへの支援
4. 母子保健推進員の活動内容について
・母子保健推進員による中学生の意識調査
・「すこやか展」での展示発表
・「おっぱいレポート」での母乳育児促進
5. 母子援助困難事例について
・他職種に働きかけながら援助した事例
・母子保健推進員とともに援助した事例 |
|---|

して語った活動内容は表2のとおりであった。

2) 記録方法

保健婦の了解を得た上でテープ録音を行い逐語録を作成し、活動内容ごとに整理した。

3) 記録内容の確認

記録内容について、①活動の事実関係が不明な点、②保健婦の意図（活動目的、判断）が十分表現されていない点について保健婦経験のある3人の教員（以下、筆者ら）が検討し、質問項目を挙げて保健婦に郵送し、内容の修正、補足、質問に対する回答の記述を依頼した。質

表3 質問項目の内容

- | |
|--|
| ・就学指導委員会に参加した時期と経過
・養護教諭との日常的な連携で大切にしていること
・保育園長会に参加した時期と経過
・学校保健会設立の時期と組織構成の確認
・ことばの教室に対する住民意識への働きかけと関係機関との具体的な連携について
・母子保健推進員活動の詳細、意図 |
|--|

問項目の内容は表3のとおりであった。

4) 聞き取り (2回目)

初回の聞き取り対象としたa保健婦と、現在母子保健事業を担当している保健婦3名(c・d・e)が選出され、計4名の保健婦から教員12名が同時に聞き取りをした。所要時間は約1時間であった。記録、質問項目、保健婦があらかじめ記述した回答を資料として聞き取りを行った。

5) 分析内容の選択

逐語録より、筆者らが「保健婦らしい活動」が表現されている部分を、それぞれに選択した。「保健婦らしい活動」とは、筆者らが自身の保健婦活動経験を踏まえて逐語録を読み取り、保健婦独自の判断、アセスメント、目的・目標が含まれると判断できる活動とした。

筆者らが検討し合意できたものについて、その部分が含まれるセンテンスを選択・抽出した。

6) 保健婦の意図の記述

選択したセンテンスについて前後の文脈と活動資料を参考にして検討し、筆者らが保健婦の意図を記述した。ひとつのセンテンスにおいて複数の意図が含まれると考えられるものは、それぞれ記述した。

7) 記録内容の再確認

保健婦の意図を検討する過程において、意図をできる

だけの確に理解するため記録内容の再確認を行った。町の保健福祉活動に関する資料(表4)を収集し参考にした。資料で得られない情報やさらに意図の表現を求める

表4 参考にした活動資料

・第四次総合計画書	・障害者計画書
・母子保健計画書	・老人保健福祉計画書
・介護保険事業計画書	・保健活動の記録
・学校保健会資料	
・健康づくり推進計画書(保健計画書)	
・健康づくり推進事業実績報告書	
・地域保健活動の現状と課題について	
・食に関する教育研究推進協議会資料	
・社会福祉協議会活動のあらまし	
・ポケット版数字で見る町の姿ー平成12年度版	
・広報	・観光パンフレット

表5 追加質問項目の内容

・「食の検討会」の学校保健会組織における位置づけと検討会の構成メンバー、具体的な内容
・栄養士部会、養護教諭部会の調査の目的と位置づけ
・「ミニネット会議」の学校保健会組織における位置づけと構成メンバー
・母子保健推進員への期待や希望、期待する役割、選出方法と地域組織との関連
・母子保健推進員を長く続けることの意味

項目について、追加質問項目(表5)を作成した。

8) 聞き取り(3回目)

追加質問項目をその場で提示した結果、初回の聞き取り対象としたa保健婦、b保健婦、母子保健事業担当のc保健婦、d保健婦、さらに母子保健事業担当ではないが受け持ち地区で母子保健福祉活動を行っているf保健婦が選出され、計5名の保健婦から回答を得た。教員9名が同時に聞き取りをした。所要時間は約30分であった。

9) 保健婦の意図の分類・整理

6)で記述した意図の抽象度を高め、内容別に分類し、整理した。

選択したセンテンスから保健婦の意図を記述し、それぞれの意図の抽象度を高めて分類した例を表6に示す。また、分類した意図を整理したものを表7に示す。

2. 分類・整理された保健婦の意図の内容

保健婦らしい活動が表現されていると判断し選択されたセンテンスは82件記述され、保健婦の意図は112件抽出され、保健婦の意図は55項目に分類された。

保健婦の意図を内容別に分類すると、「協同活動体制づくり」21項目、「援助の基本」6項目、「看護活動の展

開方法」9項目、「継続した援助のための方法」2項目、「活動方法の工夫」3項目、「対象の捉え方と働きかけ」3項目、「総合的な地域保健活動の推進」1項目、「サービス資源づくりとサービスの質の保障」2項目、「保健福祉サービスの質の向上」5項目、「ライフサイクル上の課題を予測した予防的取り組み」1項目、「看護専門職としての姿勢」2項目に整理された。

この「協同活動体制づくり」、「援助の基本」、「看護活動の展開方法」、「継続した援助のための方法」、「活動方法の工夫」、「対象の捉え方と働きかけ」の44項目は、「看護方法を表す意図」に整理された。そして「総合的な地域保健活動の推進」、「サービス資源づくりとサービスの質の保障」、「保健福祉サービスの質の向上」、「ライフサイクル上の課題を予測した予防的取り組み」の9項目は、「看護活動の目標・目指すものを表す意図」に整理された。そして、「看護専門職の姿勢」2項目は、「看護専門職としての姿勢を表す意図」として整理された。整理した保健婦の意図の内容を以下に述べる。

「看護活動の方法を表す意図」は具体的な行為レベルとして表現された保健婦の目的・目標であり、保健福祉活動における特徴的な看護活動の方法に関することであった。

「協同活動体制づくり」では協同した相手は「保育園、学校、教育委員会」と「母子保健推進員」であった。

「保育園、学校、教育委員会との協同活動体制づくり」では養護教諭、保育士と地域の子どもへの働きかけの認識の共有、養護教諭・保育士の主体的な活動となるための働きかけなどがあった。養護教諭、保育士との認識の共有では、活動目標、対象主体の援助の基本姿勢、地域の健康課題について認識の共有が図られていた。養護教諭、保育士に働きかけた内容には、学校が主体的に独立して取り組めるように、学校側からの保健婦の活用を促す、などの内容があった。

「母子保健推進員との協同活動体制づくり」では母子保健推進員の活動に必要な条件づくりをする、母子保健推進員の主体性に基づく活動になるよう働きかけるなどがあった。母子保健推進員に働きかけた内容には、活動する場や機会の提供、提案を受け止め認め支える、意見が常に表に出るようにするなどの内容があった。

「援助の基本」は、日常生活の営みに着目して援助を

表6 分析例

番号	活動内容	選定したセンテンス*	保健婦の意図	意図の分類
1	学校保健に関わる活動	食教育をテーマにした検討会に保健婦も参加している。孤食の問題がA町でも多いことが栄養士、養護教諭部門の調査からすでにわかっていた。	すでにA町の問題として明らかになっていた孤食の問題を含めた食生活の問題解決のために町の教育行政政策に反映できる食に関する協議会に保健婦が加わることで、児童だけではなく親からもアプローチできるようにする	子どもだけでなく家族を単位に捉え、働きかけの対象とすることを重視する
			町の教育行政政策に反映できる食に関する協議会に保健婦が加わることで、解決方法、手段を多様にする	町の教育行政に反映できる食に関する協議会で保健婦が専門性を発揮する
2	学校保健に関わる活動	子どもたちの健康状態を保護者にきちんとみせていくことから実施する必要があると提案している。	子どもの食生活改善のためには必要不可欠である家族を働きかけの対象とする	子どもだけでなく家族を単位に捉え、働きかけの対象とすることを重視する
			保護者に身体的データによる健康実態を示し、保護者自らの問題意識を高める	保護者に子どもの身体的データによる健康実態を示し、保護者自らの問題意識を高める
			家族を対象に客観的データと生活実態をつなげて事実を示すことで、養護教諭に対して保健婦の専門性を示している	町の教育行政に反映できる食に関する協議会で検診データや生活実態などの客観的事実を提示する
3	保育園との連携	役場の中で保育士の評価はただ子どもと遊んでいるだけと評価が低く、改善策として社会福祉協議会に勤務していた保育士資格をもつ職員と共に、役場で園長会を開催し、管轄している部署の長の参加を促した	役場や保育園の担当課長に保育士の役割機能の理解を促すことで、当該地区の福祉サービスの質の向上を図る	保健福祉サービスの質の向上（役場や保育園担当課責任者の保育士の評価の向上を目指す）
			役場内で園長会を開催することで、保育園担当課長が参加しやすい条件を整える	役場内の保育園担当課の責任者に保育園長会の組織が認められる活動にする

* 保健婦の意図を検討するために参考にした前後のセンテンスも含めて示す

行う、心や身体に問題を抱えた対象者自身の認識を尊重して援助を行うなどがあった。

「看護活動の展開方法」は、住民の生活実態に基づいた活動、表面化されにくい住民のニーズから活動を展開するなどがあった。

「継続した援助のための方法」では、意識改革を狙い粘り強く長期的な働きかけを行う、子ども集団の健康状態を経年推移で捉えることをしていた。

「活動方法の工夫」は、公的保健事業（予防接種）をこなすのではなく、学校・保育園との連携や協同の好機と捉えるなどがあった。

「対象の捉え方と働きかけ」は、町内全域に平等なサービス提供ができる条件を整える、子どもだけでなく家族を単位に捉え働きかけの対象とすることを重視するなど、看護対象を個人だけで捉えず、家族、地域と広げて捉えていた。

「看護活動の目標・目指すもの」は看護職の責任において支援すべき保健福祉活動の課題、目標に関することであった。「総合的な地域保健活動の推進」は学校保

健も含めた総合的な地域保健活動の推進があった。「サービス資源づくりとサービスの質の保障」は、予防接種を継続して安全なサービスとしての質を保障する、心身障害児通園事業といった町に必要なサービス資源づくりがあった。「保健福祉サービスの質の向上」は役場や所属課長の保育士の評価向上を目指す、保育士が提供するサービスの向上を図るなどがあった。「ライフサイクル上の課題を予測した予防的取り組み」は生活習慣病予防や妊娠といった成人期に向けての予防的取り組みがあった。

「看護専門職としての姿勢」は、町の教育行政政策に反映できる食に関する協議会で保健婦が専門性を発揮する、保育園、学校と子どもの生活の場が変わっても保健婦は一貫して援助を継続する責任を持つ、といった看護専門職としての姿勢が現れていた。

V. 考察

1. 保健婦の意図の内容

整理した意図は、地域看護学の文献¹⁾で述べられてい

表7 保健婦活動の意図の分類

<看護活動の方法を表す意図：44項目>

1. 協同活動体制づくり

1) 保育園, 学校, 教育委員会等との協同活動体制づくり

- ①養護教諭・保育士と共に活動に取り組む関係を形成する ②保健婦や保健事業への理解と協力を得る
- ③組織の責任者(保育園長)の認識を常に捉えて働きかける ④養護教諭・保育士と地域の子どもへの働きかけの認識を共有する(活動目標/対象主体の援助の基本姿勢/地域健康課題)
- ⑤子どもに対する援助や支援体制が継続されるようにする(養護教諭の異動時には、治療中の子どもについて保健婦が引継ぎを受けて後任者につなぐ/心身障害児通園事業の場で継続して子どもの状況を把握する)
- ⑥子ども一人ひとりへの援助に継続した責任を持つことを養護教諭に示していく
- ⑦就学指導委員会で保育園側からも情報提供できるようにする
- ⑧養護教諭・保育士の主体的な活動となるように働きかける(学校が主体的に独立して取り組めるようにする/学校側からの保健婦の活用を促す/支援者としての保育士の責任性を引き出す/園長が納得して園長会への保健婦の参加を受け入れられるようにする/園長が主体的に若い保健婦に関わることをねらう/当事者である園長に就学指導委員会への参加希望表明を促す)
- ⑨町の教育行政に反映できる食に関する協議会で検診データや生活実態などの客観的事実を提示する
- ⑩学校保健会の必要性を訴え問題提起を行う
- ⑪学校保健会の機能が維持継続されるように保健婦が積極的に参加する
- ⑫保健婦, 養護教諭, 保育士, 学校栄養士, 社会教育で構成する既存の組織の充実を図る
- ⑬役場内の保育園担当課の責任者に保育園長会の組織が認められる活動にする
- ⑭組織の責任者(園長, 教育長)の立場や役割を踏まえて働きかける
- ⑮組織的な問題解決をねらう(町の教育行政政策に反映できる食に関する協議会(教育委員会, 教務主任, 保健主事, 養護教諭, 学校栄養士, 保育士, PTA, 保健婦で構成する組織)で専門職としての発言を行う/保育園の担当課から就学指導委員会へ組織レベルでの申し入れを促す)

2) 母子保健推進員との協同活動体制づくり

- ①母子保健推進員の主体性に基づく活動になるよう働きかける(提案を受け止め認め支える/意見が常に表に出るようにする/関心や希望を引き出す/メンバー同士の伝達重視/活動する場や機会提供/主体性の尊重/推進員が自分の活動に責任を持つ/活動意義の確認/役割発揮/自己実現/情報を教えていただくという姿勢/活動を支えていく姿勢)
- ②母子保健推進員と地域の子育て現状について共感しあう
- ③母子保健推進員が住民の健康を継続して支援していくことを重視する
- ④母子保健推進員が住民の身近な相談者であり代弁者であることを重視する
- ⑤母子保健推進員と住民とのつながりを大切に情報を提供したり収集する
- ⑥母子保健推進員の活動に必要な条件作りをする

2. 援助の基本

- ①日常生活の営みに着目して援助を行う
- ②心や身体に問題を抱えた対象者自身の認識を尊重して援助を行なう
- ③保護者としての役割を踏まえて親へ働きかける
- ④母子保健推進員との信頼関係を形成する
- ⑤母子保健推進員に対して、推進員も一住民として対応する
- ⑥母子保健推進員一人ひとりの性格にあわせて働きかける

3. 看護活動の展開方法

- ①住民の生活実態把握に基づいた活動
- ②表面化されにくい住民のニーズから活動を展開する
- ③保護者に子どもの身体的データによる健康実態を示し、保護者自らの問題意識を高める
- ④家族を単位とした働きかけから、地域社会全体の健康生活の向上につなげる
- ⑤個別事例を積み重ねて養護教諭と協同する
- ⑥母子保健推進員の声を母子保健福祉施策に反映する
- ⑦母乳育児を契機に子育て支援策を展開する
- ⑧共通の健康課題をもつ住民同士(心身障害児通園事業に通う親同士)の交流や支え合いを支える
- ⑨全数管理(予防接種を受けなかった児も全て健康状況を確認する)

4. 継続した援助のための方法

- ①意識改革をねらい粘り強く長期的な働きかけを行う
- ②子ども集団の健康状態を経年の推移で捉える

5. 活動方法の工夫

- ①公的保健事業(予防接種他)をこなすのではなく、学校・保育園との連携や養護教諭との協同の好機と捉える
- ②公的保健事業(母子健康手帳の交付, 予防接種)の機会を活かして住民の生活実態を把握する
- ③実績を作り活動にいかす(必要性の明確化/モデル地区から全町へ活動の波及を図る)

6. 対象の捉え方と働きかけ

- ①町にとどまらない近隣市町村のサービス資源を情報収集する
- ②町内全域に平等なサービス提供ができる条件を整える
- ③子どもだけでなく家族を単位に捉え、働きかけの対象とすることを重視する

<看護活動の目標・目指すものを表す意図：9項目>

1. 総合的な地域保健活動の推進

- ①学校保健も含めた総合的な地域保健活動の推進

2. サービス資源づくりとサービスの質の保障

- ①住民にとって必要なサービス資源(心身障害児通園事業)づくり
- ②継続した安全なサービス(予防接種)の質の保障

3. 保健福祉サービスの質の向上

- ①看護専門職として提供できる援助の質の向上を図る
- ②子どもが本来の状態発達相談を受けられる場づくり
- ③保育士と保健婦がお互いの活動を理解し、保健福祉サービスの質の向上を目指す
- ④保育士が提供するサービスの質の向上を図る
- ⑤役場や保育園担当課責任者の保育士の評価の向上を目指す

4. ライフサイクル上の課題を予測した予防的取り組み

- ①成人期の健康課題(生活習慣病予防/妊娠)を予測した予防的取り組みをする

<看護専門職としての姿勢を表す意図：2項目>

- ①町の教育行政に反映できる食に関する協議会で保健婦が専門性を発揮する
- ②保育園・学校と子どもの生活の場が変わっても、保健婦は一貫して援助を継続する責任を持つ

る地域看護活動の基本から、「対象集団のとらえ方」、「総合的プログラムでの展開」、「他職種との共同活動」、「生活共同体における問題解決」、「ヘルスケア資源の活用と組織化」についてほぼ一致することが伺えたが、詳細にみるとA町の保健婦活動における援助の特質といえる内容が読み取れた。

意図の内容を見ると、保育園、学校、教育委員会など子どもに関わる機関および母子保健推進員との協同体制づくりに関する項目が最も多く整理された。特に養護教諭・保育士と母子保健推進員への主体的な活動となるための働きかけについては、かなり詳細で具体的な意図が多く挙げられた。

このことから、A町の母子保健福祉活動では、保育園、学校、教育委員会など子どもに関わる機関、母子保健推進員の主体性を引き出すことを重視した協同体制づくりを中心に行っていることが伺えた。さらに、これら学校や保育園へ働きかける援助は「総合的な地域保健活動の推進」、「保健福祉サービスの質の向上」を目指していることが読み取れた。

母子保健推進員に対しては主体性を引き出す働きかけのほかに、母子保健推進員を一人の住民として捉え、信頼関係を作って対応していることが「援助の基本」の内容から読み取れる。単なる行政のお手伝いではなく一人ひとりを尊重し、母子保健推進員に対しても看護の基本を適用させていた。

「継続した援助のための方法」の内容は、長期にわたる実践活動について聞き取ったからこそ得られた項目であると考えられる。「看護専門職としての姿勢を表す意図」から「保健婦は一貫して援助を継続する責任を持つ」とあるが、これもA町保健婦が長年にわたる実践活動の中で培われた姿勢であると考えられる。

今回聞き取った活動内容はA町の保健福祉活動の一部ではあるが、意図的に取り組んでいると保健婦が選択した長年にわたる実践活動を聞き取りの素材としたことで、援助の特質が広範囲で詳細に引き出されることが示唆された。

2. 母子保健推進員活動事象からの意図の抽出方法

母子保健推進員活動に関する聞き取り場面では、初回および2回目の聞き取り内容で母子保健推進員による活動内容が多く語られ、個々の事象が母子保健推進員自身

の考えによる活動か、保健婦が意図して母子保健推進員に働きかけた結果の活動か判断できず、意図の抽出が困難であった。3回目の聞き取りにて保健婦が母子保健推進員に対してどのような意図をもって関わっているか質問することで、母子保健推進員活動への全般的な意図を聞き取ることができたが、初回に聞き取った事実と照合しながら意図を聞き取る必要があった。

母子保健推進員活動のように、保健婦以外の者が主体となっている地区組織活動から援助意図を抽出するには、その活動内容とあわせ、保健婦がその活動に対してどのような働きかけを行っているのかを具体的に聞き取る必要がある。

3. 保健婦活動の聞き取りから援助の特質を引き出す方法

先行研究から、保健婦の看護援助の特質を引き出す方法としては、保健婦から活動を聞き取り、その意図を抽出整理する方法²⁾、研究者自身が援助実践し自らの援助行為と意図を抽出整理していく方法³⁾⁴⁾⁵⁾、調査票を用いた郵送調査により保健婦が感じていることを自由記載しその記述内容を整理する方法⁶⁾が用いられていた。

本研究の方法は、援助の特質を引き出す方法として実際に目に見える援助行為のみを研究素材とはせず、保健婦が感じ考えたことを記載し、保健婦が内面で捉えていることに迫っていく点では上記の研究と共通した方法をとっているが、妥当性について今後検証していくことが必要である。

本研究の方法で工夫したこととして、複数の研究者が聞き取り内容を検討し、事実の確認を求めたり、保健婦の意図が十分に表現されるよう繰り返し質問することで、よりの確な意図が抽出されるようにした。また、保健事業の過去、現在の担当者である複数の保健婦を聞き取りの対象とすることで、過去から現在まで継続した保健福祉活動について聞き取ることができた。

本研究の特徴的な結果として、55項目に分類した保健婦の意図のうち、「看護活動の方法を表す意図」が44項目と最も多く引き出された。このことは、センテンスという細かい単位で意図の抽出を試みた結果、保健婦の目的・目標が、具体的な行為レベルで表現されたためと考えられる。

4. 保健婦活動の聞き取りから援助の特質を引き出す意

義

整理した保健婦活動は、保健婦が町で日常的に行っている保健福祉活動から自ら自由に選択して話した内容より引き出されたものであるため、保健婦自身が自分の町の活動事象から保健婦活動の基本を確認することができる。複数の保健婦から同時に聞き取りをしたことで、若い世代の保健婦が過去の保健婦活動で培われた知恵と経験を知る機会となり、保健婦の世代間で保健婦活動の基本を確認できる。また保健婦自身が意図的に取り組んでいる活動の根拠が明確になることで、保健婦活動評価の一つの方法として用いることが可能ではないかと考える。さらに、一つの町において過去から現在に至るまで保健婦が長年に継続して実践した活動であるから、町の保健婦活動の特徴が明確になり、町独自の保健福祉活動の推進につなげることができると思う。

保健婦の意図を分類整理して引き出された援助の特質については、今後保健婦に提示し保健婦活動の評価に用いることができるか、また、現在の保健福祉活動を推進していく上でも適用できるか検討していきたい。

VI. おわりに

保健婦の援助の特質を引き出す方法としては妥当性の検証が必要であるが、具体的に意図を整理することでこの町の保健婦の援助の特質を見出すことができた。今回は母子保健福祉活動のみの聞き取りであったが、今後は他の分野の保健福祉活動からも援助の特質を引き出し、A町の保健婦活動の特徴を明らかにしていきたい。

参考文献

1. 平山朝子：地区活動の基本と対象のとりえ方，公衆衛生看護学体系1 公衆衛生看護学総論1（平山朝子，宮地文子編），3版；53-68，日本看護協会出版会，2000.
2. 坪内美奈：地域社会づくりにかかわる看護援助方法の特質，千葉看護学会誌，6（1）；9-15，2000.
3. 田村須賀子：家庭訪問の援助行為における看護職の意図，千葉看護学会誌，5（2）；73-78，1999.
4. 田村須賀子：新生児家庭訪問における援助ニーズが把握にかかわる看護職の意図，千葉看護学会誌，6（2）；32-37，2000.
5. 米増直美：在宅ケアの外部支援資源利用にかかわる援助の特質，千葉看護学会誌，5（2）；25-30，1999.
6. 井出成美，宮崎美砂子，山田洋子，高屋順子，平山朝子：

保健婦（士）の役割認識から見た行政サービスとして機能する看護の特質，千葉看護学会誌，5（1）；71-77，1999.

（受稿日 平成14年2月26日）